



Eld; Kou MUKAI
2-12-2 ASAHI MATTI, ABENO, OSAKA, Jap.

30, Jun '81 M-700 248

イオム通信

大阪市阿倍野区旭町2-12-2

向井 勝

毎年6月23日は、一日中忙しいとなるめぐりあわせらしい。昨年は、午前7時から午後8時まで輸送作戦見路の自衛隊へ鍵を渡すアピールと終日行動だった。ことしは、午前十時、関西電力株主総会（午時半朝日ビル前にあつまつた）から私は男女約半々の十三人。ところが先方さんは、会場入口にガードマンと関電社員がむらがつてあります（60人・私服数人・制服50人）。それからナント横丁には、輸送車一台にびっしりの機動隊までそろえて（おでむかえ）。終会終り（午時半・ちょうど喫茶店へはいつて落合いをしてへそくまで私服がついてきた）時間があるので、ウリ南務所。午后2時、住吉税務署へ（さん）の「軍事費拒否請求に対する更正決定」への抗議、軍艦由立での団体交渉へ（うさん）る（うはんら）が出かけて、（ぼくはサボリ）、延々三時間、そのあとで自家へ（いって）帰つたのが、夜11時。

関電株主総会の様子は、寒流報告的で、フロント不払い連しど整で上演します。ぜひ見物にきて下さい。

か、民ね、と、わ

たくぼほ図書館という「獄中者」へ本の差入れをやつてるボランティアグループが、毎月一回公開市民講座をひらいている。16日は「なんとなく無闇心、あなたの人権、大丈夫?」という標題。西村徹さんが話すとして、「これは聞き手がせぬと出席した」

西村さんの話は、予想どおり、おもろくわがりやすい語り口のなかで、キラウラジカルなこととが社会変革・革命の根幹に及ぶるえしぶりに問題意識を共有して、自分の志を語られる。とても重大な問題の提起だった。

（聞いてみんなどうだらうしく、翌17日不払い連の集りで例えば、「國が原發する安全や、いうてゐるのに、なんて反対や」という一般市民の向うにある、安全問題だけでは済まされぬ（新規）国家指向あるいは国家性を、どうつき崩すか、などの論議が出了た。）

西村さんの話の冒頭の部分を、ごくすこし要約すると、
「人権というとき、戦前と戦後どちらがうか、ちがわいか。戦前は君が、すばり、そら戦後がよい」といった。もちろん、戦後のそれも現状を不完全であり、いろいろの困難がある（が）からず、戦後の方が、ずつとよいのだとうことを確認しておきたい。どうしてこう、権力はどうと回復して（いた）か。民権側は殆ど、（どうしてこう、権力はどうと回復して（いた）か。民権側は殆ど）すべもなく、必ずしも（が）された（いた）か。そのことで何となく私にみえてき（いた）ことが一つある。それは

民権側一いわゆる左翼全般をぶくめて一が、人権を主張しなから、どうかで國家（このままの）を前提にし、國家の存在をゆるしてしまつて（いる）。國家を想えられないものとしている（のではない）から、（どうしてこう、権力はどうと回復して（いた）か。民権側は殆ど）すべもなく、必ずしも（が）された（いた）か。そのことで何となく私にみえてき（いた）ことが一つある。それは

つまり私たちが、民衆の社会をつくろうとするとき、どうかで国を媒介して（いる）が、これまでの、戦後の歴史（だった）とあたつ。いく、というのが、これまでの、戦後の歴史（だった）とあたつ。

▲ ページ下部の写真は、西村さん

国家をどのようにして相対化するか、超えるかーが社会主義者にとつては課題だが、といって、いきなり国家廢絶を唱えて、それですじことでもない。

国家をどうやって超えるかは、どんな形で、國が私たちの中へ渗透するか、どのようにして私たちが國にからめとられているか、から問題になればならぬ。……（中・後略）

西村さんの話で、ぼくが、まず耳にとめたのは、人権と人権／ということは、だった。

民権！ 明治の「自由民権」を思いだして、ちよつと時代がかっこいい。というのは、戦後民主主義の中で、「人権」ということばは、ずい分國化してしまった。で、人権を民権と読み替えることで、とくに国家と人権の關係がはつきりするのではないか。

西村さんは、人権を主張しながら、どうがで国家を前提にしてしまつて（いる）。ことを、国権に対する「民権」としてどうると、問題がよくみえてくる。

国権は、それを主張すると、公共性とか、公益とか、公共の福祉と名乗つて、人権と対立する。そして人権の主張は、たとえばそれが自分でなく他の人の主張であるとき、「利益は公益に抑制されて当然」というふうになる。（もうこの考え方の中に為政者的視点がしおびこんでいる是々非常主義ですらない）つまり多少のことなら、みんなのために、個人の権利はがまくすぐ（だ）といふ公益という名のものの優先を、ますよしとする。

この場合、みんなとは、どこか誰とも別らぬ、きわめてあいまいな一つの代表の顔付で出てくる「國家」である。自分の參加していれる共同体とか、隣り組であつたりすることは殆どない。もし國家が、人民の人民による人民のためのもの（（ありきうちながく））とおなじ（おなじ）ことを意味する（も）民権を越える国権など（も）ない筈である。古いかると国権側の思想であり、支配者の思想である。

西村さんは、敗戦によつて上のもとをしているのは、私たちの内部にある「國家の思想」である。古いかると国権側と民権側が、同じ方に



ならんで歩き出したといつたが、八月十五日の敗戦で感じた解放感とは、そのとき自分の内なるへ国家の思想が生まれてはじめて、かれじかづぱりとありし流して、民権の立場に立つたことからでござしたものにちがいない。

そして、その後の「田代・国権側がまきかせし・民権側はたゞ押されつぱなしの後退」ということは、南つて敗けたというよりもむしろ、私たち民権側自身の内部に、再びへ国家の思想が再生し気付かぬまゝその増殖をゆるしてきて、こと外ならぬのではないか。

人権の問題は、その意味で、国権に対する民権の障いとして、まず何よりも自覚される必要がある。

やつてますか 健 康法 原発ひとつで すべてムダ!



イスラエル機によるイラクの原子炉爆撃は、世界中をしくさんさせた。ところがイスラエル、非難ばかりで、この事件が何よりも明らかにしたのも、これが稼動中の原発だったからだ。身の毛もよだつがさうした、についてマスコミなど、まるで古い合せたように触れないのは、一体どうしたことか。あまりにも重大で、手をつけたら大へんなことになるにばる、という默契でも出来ているのか。

イラクの原子炉爆撃の報道が、私たちへまず直接につきつける問題は、
① 石一、戦争ともなれば、まつ先に、戦略的急所として、原子力発電所がねらわれる。(日本の原発はみな海岸にある。潜水艦からの砲撃で一巻の終り)へ別に原子炉に命中せざとも、効果は同じだ。原発構内の例えば大小数万に及ぶパイプ、継手、ポンプがはずれたり曲ったり、こわれて、冷却水が噴きだしたら、手のうちようもない。原子炉が無疾でも、冷却水が送られてこなければ、炉心熔融という最悪事態になるのは火を見るより明らか。
せまい日本列島に、いまでも22基もひしめいているといふことは、それだけで致命的。

② たとえ平時でも、原発が建ち、動いているといふことは一つまり原発の存在は、一軍事的にもつとも弱い。しかも防護の方法がない致命的な局所をやらけ出していることだ。
それは、どんなに自衛隊を増強し、装備の新鋭化をはからうとも、その全部を無意味化する。昨今はやりの軍備競争のまゝ、一方で軍備の充実を叫びながら、一方で原発を推進するなどてことは、まるつきりの矛盾である。

そこでぼくが、いまだしてもないだいことは――

まずは、閣僚が原発をたてようとしている和歌山県日高町の一松町長さんだ。一戦争は絶対に永くあらうないとの確信がありますか。一方で、そのとき、まつ先にねらわれて、日高町一帯は放射能砂漠となり、人ひとりいなし死の町となることを覚悟してますか。そんなことないさうなら、せめて向う百年丈夫いう保証を一筆かりて發表して下さい。あんたたゞ

へな大それた責任がりますか。はよ町長めめなさい。

それから、ぼくのひとりごと……

「イラクの原子炉爆撃とともにかく工事へんりや。いつだつたかズペイング、建設中の原発が爆破されたことがあつたけど、それをふくめて、原発はこゝせの中に、一つでもない方が工事。イスラエルのやつは気に入らんけど、原発を計画をばつこわすのは、ひとの如何をどうぞサンセイや。国際法違反なんて次元の問題やないで。

▼ 天皇・皇太子の守護は、一面右上段におくこと、が宮内庁からの要望で、決定している。

▼ 戦前・戦中で発禁になつたもの多くは、その内容ではなく、必ず印刷してみたら不鮮明なたの不可、という理由が多い。

▼ 一九五二年 国語審議会は「皇室用語」を決定している。

▼ ニュモ帳から掲出
トービ・新聞など、マスコミ各社には、皇室用語

復権の請求に、いつて時の司法省次官佐藤惣介にあつたところ、「日本の國体は変つていない」と云われた。

▼ 下左の新聞切抜きは、22分間で四億円しつかつた奈良での植樹祭当日の状況をあらわす、社会タイムスの投書記事。(イヌイ新聞全般)

▼ 大逆事件生残りの坂本清馬と園林寅松の二人が、昭和21年5月二十四日の日曜に、京都に内戸から登壇して、決定している。

▼ 戦前・戦中で発禁になつたもの多くは、その内容ではなく、必ず印刷してみたら不鮮明なたの不可、という理由が多い。

▼ 一九五二年 国語審議会は「皇室用語」を決

定している。

▼ 天皇・皇太子の守護は、一面右上段におくこと、が宮内庁からの要望で、決定している。

▼ 下左の新聞切抜きは、22分間で四億円しつかつた奈良での植樹祭当日の状況をあらわす、社会タイムスの投書記事。(イヌイ新聞全般)

▼ 京都・大阪・兵庫(ホーリマリ)を天皇が

ちよつとのぞりにぼつかつた)の装備は、うよつ

く、必ず真が印刷してみたら不鮮明なたの不可、といふ理由が多

多い。

▼ 一九五二年 国語審議会は「皇室用語」を決

定している?

私が恐れている?

五月二十四日の日曜に、京都に用事があり近鉄の駅へ行くと、制服の警官が三人、私服の警官とお

兵庫は、姫路のウリの旅者たちなど連日見張られたことか。↓

▼ 関西電力は一般大手企業がそろつて減益の中を、メタメタにもうけだらしき。そ

のモウケかくしのあくぼれが、ぼくのところへも廻つてきた。旅館が終つた翌24日、阪急百貨店からの配達品はて何やろとみたら創立三十周年と銘うつて株主への記念品、

五株で時価五〇〇円、位の丁寧のよいパン切りナイフ。十二百株の人は、時価七千円ほどの地図々鏡。この支出額を物好きに推定すると、三三〇億円。社員や関係業者にそぼつまじてゐるだろうし、エライことである。原発廃炉へ湯水のように流れむれ東作戦、想像にあまる。

それがみんな、ぼくらの電気代。

▼ ぼくのところへの電話は、午后一時以降にかかる。

6月28日

(山本龍二十八歳)